

読める字を手がかりに



前回の続きです。(p)は最初の 5 文字は前回の復習で、
 「なおまたうてんなど猶又雨天等」です。次の **之** は「之」で、次の **云** が問題です。一見すると上半分の **云** から「着」にも見えな
 いわけではありません。この字の特徴は下の **云** という
 部分で、この「感じ」は「節」という字です。「〇〇之節」
 という時を表す言い回しで頻出しますので、覚えておかな
 ければなりません。慣れていると、「雨天等」の辺で“雨
 天などの時”？と想像して、**云** をみて、「節」でOK！
 という感じで読みます。

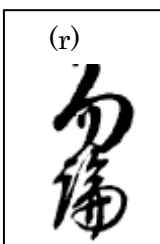
(q)の最初の**桐**という字では、つくり 旁の「同」という字が

読めると思います。すると、偏は「木」か「**木**」ですが、次の**油**が、はっきりと「油」
 なので、**桐**は「桐」で決まりです。次の「ホ」は、前回やった「等」です。次の3文字
 もほとんど崩されていません。「じょうぶに丈夫ニ」と読めます。次の**相**も「相」しかありません。**掛**
 は少し難しいですが、**偏**は「**木**」のようです。真ん中に「圭」のような「主」のような感じ
 のパーツが見えます。右には「ト」のような「戈」のようなパーツも見えます。これらを組
 み合わせて、「**木圭**」？「**木主**」？で、想像すると、「掛」という字が思い
 当たります。

次の**可**は、慣れていない頃は、わかりにくい字です。「一の」？などと
 思ってしまいます。実は、これは「可」という字で、頻出する崩し方です。

もつとも、その下に **申** があり、これが「申」なので、**可**は「可」と確信
 が持てるのですが。最後は「候」で「可申候」(もうすべく せうろう)となります。

まとめると、(q)は「桐油などしつかり桐油等きりあがらなどしつかり丈夫ニ相掛可申候」(「桐油などしつかり
 かけるようにしなさい」くらいの意味)となります。



最後に(r)の部分だけやっておきます。**勿**は「勿」。**偏**
 は、偏の **言** が典型的な「言」です。右下に「冊」のようなパ
 ーツも見えるので、これは「論」です。(r)は「もちろん勿論」です。

